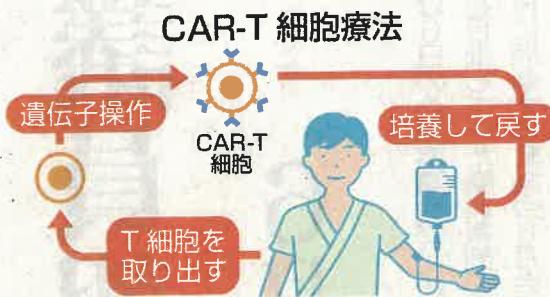


徳島大学病院は6月から、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫といった血液がんの新しい治療法「CAR-T細胞療法」を県内で初めて導入した。

抗がん剤が効かない患者にも効果が期待でき、副作用が比較的少ないため、これまで治療法が限られていた70歳以上でも治療が受けられる。



副作用少なく高齢でも可能

徳島大学病院の松岡賢市教授によると、CAR-T細胞療法は、T細胞を採取して、遺伝子操作によってCAR（細胞表面に発現する蛋白質）を付与することで、癌細胞を攻撃する機能を獲得する。この治療法は、高齢者でも副作用が少なく、効果が期待できる。

松岡教授は、「CAR-T細胞療法は、太めの点滴チューブを用いて患者の体内からT細胞を取り出して戻すだけなので、体への負担は比較的小さい。攻撃力を高めたCAR-T細胞が体内で増殖しながら急速にがん細胞を攻撃するため、サイ

CAR-T細胞療法は、T細胞を攻撃する免疫細胞「T細胞」を患者の血液中から取り出し、遺伝子操作で攻撃力を高めた「CA

徳大病院、県内初

血液がん新治療法導入

R-T細胞に改変して体内に戻す治療法。米国で開発され、国内では2019年に保険適用となつた。

血液がんは近年、新しい治療薬の開発が進み、悪性リンパ腫は抗がん剤を使つた化学療法で7割の患者が治癒できるようになつた。

一方、ネックとなるのはCAR-T細胞の製造に4～6週間を要すること。治療開始が遅れると、がんが進行して根絶できない恐れ抑えられる。

ただ、化学療法でも十分な効果が得られない患者も一定数いるため、CAR-T細胞療法はそうした患者を救う最後のとりでとして期待される。

CAR-T細胞の製造に4～6週間を要すること。治療開始が遅れると、がんが進行して根絶できない恐れが出てくる。

徳島大学病院血液内科の

松岡賢市教授は「安全で高

い効果が見込める治療法。

タイミングを逃さずに早期

からこの治療を始めること

が大切だ」と話している。

（山口和也）

徳島新聞令和7年6月7日掲載
コピー、転載禁止